

「平成18年1月1日から平成25年10月31日までに川崎医科大学附属病院で肺癌、悪性胸膜中皮腫と診断され癌薬物療法を受けられた患者さんへのお知らせ」

研究課題名：非小細胞肺癌、悪性胸膜中皮腫検体を用いた、癌薬物療法前後での腫瘍細胞内 MHC class I と NKG2D リガンドの発現量と NK 細胞浸潤数の変化の解析

川崎医科大学附属病院呼吸器外科では、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得て、平成18年1月1日から平成25年10月31日までに当診療科において肺癌、悪性胸膜中皮腫治療を受けられた患者さんを対象に、癌薬物療法（抗がん剤治療）前後に採取された病理検体を用いて、癌薬物療法が抗腫瘍免疫に及ぼす影響を解明すべく研究を行ないます。具体的には採取された肺癌、悪性胸膜中皮腫病理検体中のMHC class I、NKG2Dリガンド(MICA/B、ULBP)、PD-L1、CD133、VISTAというタンパク質の発現と、癌細胞周囲に集まってきたNK細胞というリンパ球の数の、癌薬物療法前後での変化を調べます。

新たに血液や組織を採取することはありません。また、個人が特定できる情報も収集いたしません。手術を受ける際に「手術で採取された病理材料の取り扱いと医学教育・研究使用に関する説明・同意書」に御同意いただいた方が対象です。

本研究の研究資金は主任研究者の教員研究費、平成27-30年度日本学術振興会科学研究費及び川崎医科大学プロジェクト研究費を使用します。

なお、研究を行なうために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反といいます。この研究を実施する関係者には、協和発酵キリン株式会社と大鵬薬品工業株式会社より奨学寄附金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し適正に管理されています。なお、上記企業は、本研究課題には直接関係はない企業です。

ご質問がある方、この研究に御自分のデータを使用されることに「不同意」とする方は下記連絡先までご連絡ください。

問い合わせ先 主任研究者 川崎医科大学 呼吸器外科学 講師 沖田 理貴
電子メール gts@med.kawasaki-m.ac.jp
電話 川崎医科大学代表 086-462-1111
呼吸器外科学実験室 内線 25519
FAX 086-464-1124